

## 2019年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏名
経営学部 地域ビジネス学科	教授	宮城 エステバン
最終学歴	学位	専門分野
筑波大学大学院ビジネス科学研究科 国際経営プロフェッショナル専攻修了	国際経営修士 (専門職)	国際経営

### I 教育活動

#### ○目標・計画

(目標)

アクティブ・ラーニングを導入する

(計画)

教室内で

- ・プレゼンテーション
- ・グループディスカッション
- ・ディベート
- ・デモンストレーション

を中心とする

#### ○担当科目 (前期・後期)

(前期)

インターネット社会論、グローバル人材育成論、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ

(後期)

組織コミュニケーション、次世代ビジネス基礎、現代企業論、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ

#### ○教育方法の実践

ICT ツールを利用するアクティブ・ラーニング方式を採用。

#### ○作成した教科書・教材

インターネット社会論、グローバル人材育成論、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、組織コミュニケーション、次世代ビジネス基礎、現代企業論、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、全ての講義資料を自ら作成配布した。  
演習においては、学生の個人研究 (IT) を中心とした。

#### ○自己評価

昨年、私は学生からデータを収集するために私のクラスで ICT ツールを多用し、また授業におけるアクティブラーニングの効果を評価するために授業に取り入れました。ICT 以外の活動 (グループディスカッションやディベート等) からデータを収集することは困難であったため、音声・動画認識およびそれらのデータ取得への応用等、他の分析ツールをテストすることを予定しています。

### II 研究活動

○研究課題

SNS 感情分析(移民感情分析)

○目標・計画

(目標)

SNS 感情分析のシステム

SNS の感情分析の研究は新しくないですが、主な利用目的は、マーケティングと政治<sup>1</sup>です。大学教育改善の為の研究もありますが、商用の研究より、非利益の研究は極めて低いです<sup>2</sup>。私が研究したい感情の分析テーマは、日本に住んでいる外国人の分析です。外国人は”サイレントマイノリティー”です：言葉と文化の壁が高いので、アンケート調査で取得したデータが信頼できない場合が多いです。

外国人が使っている SNS (テキスト・ビデオ・写真など) からデータを取得して特別な分析モデルを作成できれば、外国人のニーズと不満だけではなく、外国人が賞賛することもわかります。

(1)<https://translate.google.com/translate?hl=ja&sl=auto&tl=ja&u=https%3A%2F%2Fwww.ibtimes.co.uk%2Fhow-china-uses-mass-surveillance-big-data-snooping-curb-social-unrest-1555880>

(2)<https://translate.google.com/translate?hl=ja&sl=auto&tl=ja&u=https%3A%2F%2Fwww.insidehighered.com%2Fdigital-learning%2Farticle%2F2018%2F02%2F20%2Fsentiment-analysis-allows-instructors-shape-course-content>

(計画)

1 年目 :

- ・データソースの選択
- ・分析ソフトウェアのテスト

○2012 年 4 月から 2020 年 3 月の研究業績 (特許等を含む)

(著書)

なし

(学術論文)

なし

(学会発表)

なし

(特許)

なし

(その他)

なし

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況 (学内外)

なし

## ○所属学会

1. ISACA 東京支部 (情報通信技術専門家の国際的団体)
2. (ISC)<sup>2</sup> (International Information Systems Security Certification Consortium: アイエスシー・スクエア) (サイバーセキュリティ 国際的非営利団体)
3. 一般社団法人PMI (プロジェクトマネジメント)

## ○自己評価

研究テーマは、SNS その他のウェブデータを用いた移民の感情分析です。昨年も概要を示したように研究1年目は、潜在的データソースの分析およびデータ分析ツールのテストに費やされました。プライバシーに関する法律の変更により、多くのインターネット上のデータソースでデータ利用が制限されたため、データ取得の計画の変更を余儀なくされました。今後はより深い分析を行うことができるよう、データソースの数の増加を試みています。当初の計画は結果を一般に公開することでしたが、私は現在、データ分析の誤用や誤解の可能性について強い懸念を抱いています。そのため、研究を進めると共に、誤用を防ぐためのデータおよび分析の使用ガイドラインの下書きを作成しています。

## III 大学運営

### ○目標・計画

(目標)

総務委員会の一員としての立場と役割を認識し責任のある行動ができる

(計画)

総務委計画に基づく行動計画を実施する

### ○学内委員等

総務委員会委員

### ○自己評価

総務委員会委として活動しておりました。

## IV 社会貢献

### ○目標・計画

(目標)

移民支援情報サイトを立ち上げる

(計画)

1年目:

- ・ SNS/Web サーバー・ホスティングの選択・構築
- ・ キュレーション

### ○学会活動等

なし

### ○地域連携・社会貢献等

なし

## ○自己評価

私は、インターネット上のソースから受動的に取得したデータを用いたデータ分析が、移民コミュニティおよびそのニーズ、信念、ネイティブコミュニティへの統合度合いに関する深い洞察を提供できるものと強く信じています。アンケートその他の一般的な測定方法では、移民コミュニティの動態を捉え、理解することができていないと考えます。このデータ分析を地方自治体や地域社会に提供することで、移民コミュニティの理解と統合が加速すると考えます。

さまざまな Web アプリケーションおよびプラットフォームをテストしてきましたが、ターゲットオーディエンスが使用できるように大幅なカスタマイズが必要であることがわかりました。多言語インターフェイス、多様なユーザー（年齢、IT リテラシー、言語）にアピールする GUI、複数の（非共通）言語間の信頼性の高い機械翻訳などの課題により、プロジェクトにさらに複雑な層が加わりました。今年は、Web アプリケーションの展開を開始できるよう、いくつかの言語ペアに絞って取り組む予定です。

## V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

### ・中南米ビジネスの研究

昨年、私はペルーとメキシコの二つのラテンアメリカ国に特化したビジネス情報の入手に取り組んできました。両国は日本市場に向けて異なる計画と戦略を持ち、成功度合いもそれぞれ異なります。今年は、他のラテンアメリカ諸国への拡大を試みながら研究を続けます。

## VI 総括

学業に問題を抱える学生のための教育および移民の社会的統合に対するニーズは、長年の未解決課題となっています。この数年間、これらの問題に対処するためのツールとして IT が用いられてきたものの、結果は様々でした。IT を単に教えるためのツールとしてではなく、これまでになく変化を遂げつつある状況を深く分析するためのツールとして使用することで、成績の悪い学生および移民の両方のニーズへの対処方法を理解する上で役立つと考えます。昨年は、研究と教育を行う中、やりがいがあり学びが多く、自分の力を見つめ直す一年となりました。

以 上